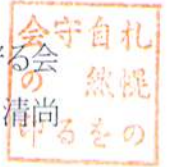


2023 年 12 月 14 日

令和 5 年策定の『札幌市森林整備計画』に関する
「札幌市森林基本方針策定に関する有識者会議」委員
逢坂 喜代美 様

札幌の自然を守る会
代表 梶田清尚



『札幌市森林整備計画』における白旗山都市環境林での皆伐促進への
ゾーニング区分変更についての質問書

突然、お便りを差し上げ、恐縮に存じます。本会は長年、札幌で活動する自然保護団体です。

当会では 20 数年前から、札幌市が保有するまとまった森林である白旗山都市環境林を、市民が憩い、自由に散策できる身近な森林として保全されるよう幾度となく働きかけてきました。

ご承知のように、この森林は、かつて市の財政が乏しかった大正初期のころ、それを補うためカラマツやヨーロッパトウヒなどを植え、学校を建てる資金にするなど大いに寄与してきました。それから 100 年を数え、都市化も進み、カラマツも 3 代目になって、今後は都市近郊に相応しい環境林として皆伐を避け、カラマツの長伐期化や択伐を進め、エゾマツ・トマツや広葉樹など郷土樹種による針広混交林に変えていくことが目指され、名称も「西山造林地」から「白旗山都市環境林」に変更されました。

それを受けた形で、この森林の取り扱い区分も「保健・文化機能等維持林」に位置づけられ、30 年間、こつこつと間伐を進め、樹下植栽木や天然広葉樹が育てられてきました。

ところが、令和 5 年 3 月 27 日策定の『札幌市森林整備計画』（以下、『計画』）では、突如、大面積の 20 ha まで皆伐が可能な「木材等生産林」に替えられ、すでに皆伐が実行されています。

これら白旗山都市環境林の歴史的経緯・森づくりの理念を無視した変更によって、「特に効率的な施業が可能な森林区域を指定。勾配が緩く、路網の整備が進んだ市有林内の人工林を指定」といった伐採優先の理由が掲げられ、いとも簡単に都市環境林の方針が踏みにじられてしまいました。まさに暴挙というほかありません。

これは、一向に進まない国の施策である大增伐を企図した人工林短伐期皆伐施業促進のための「森林経営計画制度」に業を煮やし、それに追従した無定見な道の指導なるものをして、まとまった森林である白旗山をターゲットにした、としか考えられません。

本会では、市のこうした誤りを一刻も早く正して以前の「保健・文化機能等維持林」に戻し、皆伐事業を即刻中止すべきことを申し入れています。

つきましては、貴職は、『計画』策定に当たり有識者会議の委員を務められたと伺っておりますので、そこでのご発言と『計画』でのゾーニング区分変更に関して、どうお考えで、この事態にどのように対処されるおつもりかをお聞きしたいと考え、ぶしつけとは思いますが質問させていただくことにしました。

なお、恐縮ですが 2024 年 1 月 19 日までにご回答をいただければ幸いです。

(連絡先) 梶田清尚 〒003-0021 札幌市白石区栄通 6 丁目 13-29 Tel011-851-4006

2023 年 12 月 14 日

令和 5 年策定の『札幌市森林整備計画』に関する
「札幌市森林基本方針策定に関する有識者会議」委員
柿澤 宏昭 様

札幌の自然を守る会
代表 梶田清尚



『札幌市森林整備計画』における白旗山都市環境林での皆伐促進への
ゾーニング区分変更についての質問書

突然、お便りを差し上げ、恐縮に存じます。本会は長年、札幌で活動する自然保護団体です。

当会では 20 数年前から、札幌市が保有するまとまった森林である白旗山都市環境林を、市民が憩い、自由に散策できる身近な森林として保全されるよう幾度となく働きかけてきました。

ご承知のように、この森林は、かつて市の財政が乏しかった大正初期のころ、それを補うためカラマツやヨーロッパトウヒなどを植え、学校を建てる資金にするなど大いに寄与してきました。それから 100 年を数え、都市化も進み、カラマツも 3 代目になって、今後は都市近郊に相応しい環境林として皆伐を避け、カラマツの長伐期化や択伐を進め、エゾマツ・トドマツや広葉樹など郷土樹種による針広混交林に変えていくことが目指され、名称も「西山造林地」から「白旗山都市環境林」に変更されました。

それを受けた形で、この森林の取り扱い区分も「保健・文化機能等維持林」に位置づけられ、30 年間、こつこつと間伐を進め、樹下植栽木や天然広葉樹が育てられてきました。

ところが、令和 5 年 3 月 27 日策定の『札幌市森林整備計画』(以下、『計画』)では、突如、大面積の 20 ha で皆伐が可能な「木材等生産林」に替えられ、すでに皆伐が実行されています。

これら白旗山都市環境林の歴史的経緯・森づくりの理念を無視した変更によって、「特に効率的な施業が可能な森林区域を指定。勾配が緩く、路網の整備が進んだ市有林内の人工林を指定」といった伐採優先の理由が掲げられ、いとも簡単に都市環境林の方針が踏みにじられてしまいました。まさに暴挙というほかありません。

これは、一向に進まない国の施策である大增伐を企図した人工林短伐期皆伐施業促進のための「森林経営計画制度」に業を煮やし、それに追従した無定見な道の指導なるものをして、まとまった森林である白旗山をターゲットにした、としか考えられません。

本会では、市のこうした誤りを一刻も早く正して以前の「保健・文化機能等維持林」に戻し、皆伐事業を即刻中止すべきことを申し入れています。

つきましては、貴職は、『計画』策定に当たり有識者会議の委員を務められたと伺っておりますので、そこでのご発言と『計画』でのゾーニング区分変更に関して、どうお考えで、この事態にどのように対処されるおつもりかをお聞きしたいと考え、ぶしつけとは思いますが質問させていただくことにしました。

なお、恐縮ですが 2024 年 1 月 19 日までにご回答をいただければ幸いです。

2023 年 12 月 14 日

令和 5 年策定の『札幌市森林整備計画』に関する
「札幌市森林基本方針策定に関する有識者会議」委員
佐々木 貴信 様

札幌の自然を守る会
代表 梶田清尚



『札幌市森林整備計画』における白旗山都市環境林での皆伐促進への
ゾーニング区分変更についての質問書

突然、お便りを差し上げ、恐縮に存じます。本会は長年、札幌で活動する自然保護団体です。

当会では 20 数年前から、札幌市が保有するまとまった森林である白旗山都市環境林を、市民が憩い、自由に散策できる身近な森林として保全されるよう幾度となく働きかけてきました。

ご承知のように、この森林は、かつて市の財政が乏しかった大正初期のころ、それを補うためカラマツやヨーロッパトウヒなどを植え、学校を建てる資金にするなど大いに寄与してきました。それから 100 年を数え、都市化も進み、カラマツも 3 代目になって、今後は都市近郊に相応しい環境林として皆伐を避け、カラマツの長伐期化や択伐を進め、エゾマツ・トドマツや広葉樹など郷土樹種による針広混交林に変えていくことが目指され、名称も「西山造林地」から「白旗山都市環境林」に変更されました。

それを受けた形で、この森林の取り扱い区分も「保健・文化機能等維持林」に位置づけられ、30 年間、こつこつと間伐を進め、樹下植栽木や天然広葉樹が育てられてきました。

ところが、令和 5 年 3 月 27 日策定の『札幌市森林整備計画』(以下、『計画』)では、突如、大面積の 20 ha まで皆伐が可能な「木材等生産林」に替えられ、すでに皆伐が実行されています。

これら白旗山都市環境林の歴史的経緯・森づくりの理念を無視した変更によって、「特に効率的な施業が可能な森林区域を指定。勾配が緩く、路網の整備が進んだ市有林内の人工林を指定」といった伐採優先の理由が掲げられ、いとも簡単に都市環境林の方針が踏みにじられてしまいました。まさに暴挙というほかありません。

これは、一向に進まない国の施策である大增伐を企図した人工林短伐期皆伐施業促進のための「森林経営計画制度」に業を煮やし、それに追従した無定見な道の指導なるものをして、まとまった森林である白旗山をターゲットにした、としか考えられません。

本会では、市のこうした誤りを一刻も早く正して以前の「保健・文化機能等維持林」に戻し、皆伐事業を即刻中止すべきことを申し入れています。

つきましては、貴職は、『計画』策定に当たり有識者会議の委員を務められたと伺っておりますので、そこでのご発言と『計画』でのゾーニング区分変更に関して、どうお考えで、この事態にどのように対処されるおつもりかをお聞きしたいと考え、ぶしつけとは思いますが質問させていただくことにしました。

なお、恐縮ですが 2024 年 1 月 19 日までにご回答をいただければ幸いです。

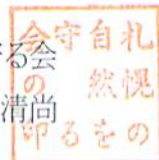
(連絡先) 梶田清尚 〒003-0021 札幌市白石区栄通 6 丁目 13-29 Tel011-851-4006

2023 年 12 月 14 日

令和 5 年策定の『札幌市森林整備計画』に関する
「札幌市森林基本方針策定に関する有識者会議」委員

庄子 康 様

札幌の自然を守る会
代表 梶田清尚



『札幌市森林整備計画』における白旗山都市環境林での皆伐促進への ゾーニング区分変更についての質問書

突然、お便りを差し上げ、恐縮に存じます。本会は長年、札幌で活動する自然保護団体です。

当会では 20 数年前から、札幌市が保有するまとまった森林である白旗山都市環境林を、市民が憩い、自由に散策できる身近な森林として保全されるよう幾度となく働きかけてきました。

ご承知のように、この森林は、かつて市の財政が乏しかった大正初期のころ、それを捕うためカラマツやヨーロッパトウヒなどを植え、学校を建てる資金にするなど大いに寄与してきました。それから 100 年を数え、都市化も進み、カラマツも 3 代目になって、今後は都市近郊に相応しい環境林として皆伐を避け、カラマツの長伐期化や択伐を進め、エゾマツ・トドマツや広葉樹など郷土樹種による針広混交林に変えていくことが目指され、名称も「西山造林地」から「白旗山都市環境林」に変更されました。

それを受けた形で、この森林の取り扱い区分も「保健・文化機能等維持林」に位置づけられ、30 年間、こつこつと間伐を進め、樹下植栽木や天然広葉樹が育てられてきました。

ところが、令和 5 年 3 月 27 日策定の『札幌市森林整備計画』(以下、『計画』)では、突如、大面積の 20 ha まで皆伐が可能な「木材等生産林」に替えられ、すでに皆伐が実行されています。

これら白旗山都市環境林の歴史的経緯・森づくりの理念を無視した変更によって、「特に効率的な施業が可能な森林区域を指定。勾配が緩く、路網の整備が進んだ市有林内の人工林を指定」といった伐採優先の理由が掲げられ、いとも簡単に都市環境林の方針が踏みにじられてしまいました。まさに暴挙というほかありません。

これは、一向に進まない国の施策である大增伐を企図した人工林短伐期皆伐施業促進のための「森林経営計画制度」に業を煮やし、それに追従した無定見な道の指導なるものをして、まとまった森林である白旗山をターゲットにした、としか考えられません。

本会では、市のこうした誤りを一刻も早く正して以前の「保健・文化機能等維持林」に戻し、皆伐事業を即刻中止すべきことを申し入れています。

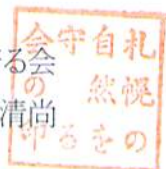
つきましては、貴職は、『計画』策定に当たり有識者会議の委員を務められたと同っておりますので、そこでのご発言と『計画』でのゾーニング区分変更に関して、どうお考えで、この事態にどのように対処されるおつもりかをお聞きしたいと考え、ぶしつけとは思いますが質問させていただくことにしました。

なお、恐縮ですが 2024 年 1 月 19 日までにご回答をいただければ幸いです。

2023 年 12 月 14 日

令和 5 年策定の『札幌市森林整備計画』に関する
「札幌市森林基本方針策定に関する有識者会議」委員
平田 美紗子 様

札幌の自然を守る会
代表 梶田清尚



『札幌市森林整備計画』における白旗山都市環境林での皆伐促進への
ゾーニング区分変更についての質問書

突然、お便りを差し上げ、恐縮に存じます。本会は長年、札幌で活動する自然保護団体です。

当会では 20 数年前から、札幌市が保有するまとまった森林である白旗山都市環境林を、市民が憩い、自由に散策できる身近な森林として保全されるよう幾度となく働きかけてきました。

ご承知のように、この森林は、かつて市の財政が乏しかった大正初期のころ、それを補うためカラマツやヨーロッパトウヒなどを植え、学校を建てる資金にするなど大いに寄与してきました。それから 100 年を数え、都市化も進み、カラマツも 3 代目になって、今後は都市近郊に相応しい環境林として皆伐を避け、カラマツの長伐期化や択伐を進め、エゾマツ・トドマツや広葉樹など郷土樹種による針広混交林に変えていくことが目指され、名称も「西山造林地」から「白旗山都市環境林」に変更されました。

それを受けた形で、この森林の取り扱い区分も「保健・文化機能等維持林」に位置づけられ、30 年間、こつこつと間伐を進め、樹下植栽木や天然広葉樹が育てられてきました。

ところが、令和 5 年 3 月 27 日策定の『札幌市森林整備計画』（以下、『計画』）では、突如、大面積の 20 ha まで皆伐が可能な「木材等生産林」に替えられ、すでに皆伐が実行されています。

これら白旗山都市環境林の歴史的経緯・森づくりの理念を無視した変更によって、「特に効率的な施業が可能な森林区域を指定。勾配が緩く、路網の整備が進んだ市有林内の人工林を指定」といった伐採優先の理由が掲げられ、いとも簡単に都市環境林の方針が踏みにじられてしまいました。まさに暴挙というほかありません。

これは、一向に進まない国の施策である大增伐を企図した人工林短伐期皆伐施業促進のための「森林経営計画制度」に業を煮やし、それに追従した無定見な道の指導なるものをして、まとまった森林である白旗山をターゲットにした、としか考えられません。

本会では、市のこうした誤りを一刻も早く正して以前の「保健・文化機能等維持林」に戻し、皆伐事業を即刻中止すべきことを申し入れています。

つきましては、貴職は、『計画』策定に当たり有識者会議の委員を務められたと同っておりますので、そこでのご発言と『計画』でのゾーニング区分変更に関して、どうお考えで、この事態にどのように対処されるおつもりかをお聞きしたいと考え、ぶしつけとは思いますが質問させていただくことにしました。

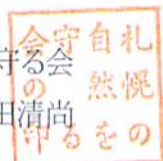
なお、恐縮ですが 2024 年 1 月 19 日までにご回答をいただければ幸いです。

2023 年 12 月 14 日

令和 5 年策定の『札幌市森林整備計画』に関する
「札幌市森林基本方針策定に関する有識者会議」委員

石橋 聡 様

札幌の自然を守る会
代表 梶田清尚



『札幌市森林整備計画』における白旗山都市環境林での皆伐促進への
ゾーニング区分変更についての質問書

突然、お便りを差し上げ、恐縮に存じます。本会は長年、札幌で活動する自然保護団体です。

当会では 20 数年前から、札幌市が保有するまとまった森林である白旗山都市環境林を、市民が憩い、自由に散策できる身近な森林として保全されるよう幾度となく働きかけてきました。

ご承知のように、この森林は、かつて市の財政が乏しかった大正初期のころ、それを補うためカラマツやヨーロッパトウヒなどを植え、学校を建てる資金にするなど大いに寄与してきました。それから 100 年を数え、都市化も進み、カラマツも 3 代目になって、今後は都市近郊に相応しい環境林として皆伐を避け、カラマツの長伐期化や択伐を進め、エゾマツ・トマツや広葉樹など郷土樹種による針広混交林に変えていくことが目指され、名称も「西山造林地」から「白旗山都市環境林」に変更されました。

それを受けた形で、この森林の取り扱い区分も「保健・文化機能等維持林」に位置づけられ、30 年間、こつこつと間伐を進め、樹下植栽木や天然広葉樹が育てられてきました。

ところが、令和 5 年 3 月 27 日策定の『札幌市森林整備計画』（以下、『計画』）では、突如、大面積の 20 ha まで皆伐が可能な「木材等生産林」に替えられ、すでに皆伐が実行されています。

これら白旗山都市環境林の歴史的経緯・森づくりの理念を無視した変更によって、「特に効率的な施業が可能な森林区域を指定。勾配が緩く、路網の整備が進んだ市有林内の人工林を指定」といった伐採優先の理由が掲げられ、いとも簡単に都市環境林の方針が踏みにじられてしまいました。まさに暴挙というほかありません。

これは、一向に進まない国の施策である大增伐を企図した人工林短伐期皆伐施業促進のための「森林経営計画制度」に業を煮やし、それに追従した無定見な道の指導なるものをして、まとまった森林である白旗山をターゲットにした、としか考えられません。

本会では、市のこうした誤りを一刻も早く正して以前の「保健・文化機能等維持林」に戻し、皆伐事業を即刻中止すべきことを申し入れています。

つきましては、貴職は、『計画』策定に当たり有識者会議の委員を務められたと同っておりますので、そこでのご発言と『計画』でのゾーニング区分変更に関して、どうお考えで、この事態にどのように対処されるおつもりかをお聞きしたいと考え、ぶしつけとは思いますが質問させていただくことにしました。

なお、恐縮ですが 2024 年 1 月 19 日までにご回答をいただければ幸いです。